

東日本大震災の被災地(宮城県)の現場視察報告書

視察日時	平成 24 年 7 月 10 日(火)～7 月 12 日(木)																									
視察場所	(1) 宮城県本吉郡南三陸町 (2)宮城県石巻市																									
視察内容	(1) 仙台市議会議員「岡本あき子」氏による被災後の市議会の対応について報告を聴く。 (2) 南三陸町の被災箇所の視察(ボランティアガイド同行) (3) 震災被害の写真展の見学 (4) 3.11 体験談の講演視聴(ボランティアガイド) (5) 石巻市立大川小学校をはじめ石巻市内の被災現場の視察(ボランティアガイド同行)																									
視察参加者	<栗東市> 中村昌司(市議会議員)・田村隆光(市議会議員)・中西純子(一般市民) <野洲市> 西村俊吉(市議会議員)・丸山敬二(市議会議員)・三和郁子(市議会議員)																									
視察報告	<p>(日時) 7月10日(火) 16:00～17:20 (場所) エルセーラ仙台(仙台市男女共同参画センター) (内容) 「仙台市における被害状況と議員としての活動」として、仙台市議会議員の岡本あき子(4期目)氏に震災発生時から現在までの取組み等について話を聞いた。</p> <p>(仙台市の被害状況)</p> <p>◆地震概要 [発生日時] 平成 23 年 3 月 11 日 14:46 頃 [震央地名] 三陸沖(北緯 38 度 06.2 分、東経 142 度 51.6 分) [規模] マグニチュード 9.0 [市内震度] 震度 6 強 宮城野区 [津波] 3 月 11 日 14:49 太平洋沿岸に大津波警報発令 津波の高さ 仙台港 7.2m(推定値) 3 月 13 日津波注意報 解除 [最大余震] マグニチュード 7.2 宮城県沖(4 月 7 日 23 時 32 分頃) 震度 6 強 宮城野区 震度 6 弱 青葉区・若林区</p> <p>◆人的被害(平成 24 年 3 月現在)</p> <table border="1"> <tr> <td>死者</td> <td>797 名(被災全域 15,854 人)・・・96%が溺死</td> </tr> <tr> <td>行方不明者</td> <td>32 名(被災全域 3,143 人)</td> </tr> <tr> <td>負傷者</td> <td>2,269 人(把握できたもののみ)</td> </tr> </table> <p>◆建物被害(平成 23 年度 10 月現在)</p> <table border="1"> <tr> <td>全壊</td> <td>29,469 棟</td> <td rowspan="5">*浸水地域は約 9,000 世帯、マンション 60 棟以上が全半壊以上、4 分の 1 世帯が半壊以上。</td> </tr> <tr> <td>大規模半壊</td> <td>26,064 棟</td> </tr> <tr> <td>半壊</td> <td>78,086 棟</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>39 棟</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>133,658 棟</td> </tr> </table> <p>◆宅地被害(平成 23 年度 8 月現在)</p> <table border="1"> <tr> <td>地盤のみ</td> <td>2,133 宅地</td> </tr> <tr> <td>擁壁のみ</td> <td>644 宅地</td> </tr> <tr> <td>地盤+擁壁</td> <td>1,254 宅地</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,031 宅地</td> </tr> </table>	死者	797 名(被災全域 15,854 人)・・・96%が溺死	行方不明者	32 名(被災全域 3,143 人)	負傷者	2,269 人(把握できたもののみ)	全壊	29,469 棟	*浸水地域は約 9,000 世帯、マンション 60 棟以上が全半壊以上、4 分の 1 世帯が半壊以上。	大規模半壊	26,064 棟	半壊	78,086 棟	その他	39 棟	合計	133,658 棟	地盤のみ	2,133 宅地	擁壁のみ	644 宅地	地盤+擁壁	1,254 宅地	合計	4,031 宅地
死者	797 名(被災全域 15,854 人)・・・96%が溺死																									
行方不明者	32 名(被災全域 3,143 人)																									
負傷者	2,269 人(把握できたもののみ)																									
全壊	29,469 棟	*浸水地域は約 9,000 世帯、マンション 60 棟以上が全半壊以上、4 分の 1 世帯が半壊以上。																								
大規模半壊	26,064 棟																									
半壊	78,086 棟																									
その他	39 棟																									
合計	133,658 棟																									
地盤のみ	2,133 宅地																									
擁壁のみ	644 宅地																									
地盤+擁壁	1,254 宅地																									
合計	4,031 宅地																									

◆公務災害（いざという時に命をかける仕事）

消防団員の死亡	150名（被災全域）
警察官の死亡・行方不明者	30名（被災全域）
自衛官の死亡	3名（被災全域）
民生委員の死亡・行方不明者	56名（被災全域）
仙台市職員の死亡	2名（津波避難広報中）
議員の被害	0名（議会開会中）

◆ライフライン

電 気	全戸停電 中心部は5日程度、全域は5月10日概ね復旧
水 道	市内約50%が断水（3月29日まで）
ガ ス	全戸供給停止は4月16日まで
下水道	4月17日まで停止
電 話	90%通信規制 1週間程度

〔市内被害額の概要〕 被害推計額 約1兆3,684億円（平成24年1月時点）

◆市有施設関係 約3,270億円

水道、ガス、下水道などライフライン関係	1,680億円
地下鉄、道路橋梁、公園等の都市基盤	1,270億円
学校、市営住宅、庁舎など建築物関係	300億円
廃棄物処理施設など生活衛生関係	20億円

◆その他公共施設 約1,452億円

文教施設関係	875億円
公共土木関係	267億円
交通関係	259億円
ライフライン、保健医療関係	32億円
その他	19億円

◆住宅・宅地 約6,086億円

◆農林水産業関係 約729億円

農地、農業用機械等	721億円
漁業関係	8億円

◆商工業関係：約2,147億円

〔復旧への課題〕

◆沿岸部の被害

- ・インフラの重要施設・、排水の拠点が壊滅
⇒引き続き排水、トイレの節水の協力、農業再生のための排水設備の早期復旧

◆瓦礫の処理

- ・仙台市は23年分の瓦礫、石巻は100年分の瓦礫量
⇒まちの復興には土地を使える状況にしなければならない。瓦礫の仮置を早期に撤去したい。瓦礫の処理を3年間で終了するためには、県外で2割の処理の協力が必要。

◆仮設住宅等被災者への生活支援・こころのケア

- ⇒孤独死、DV事件、引きこもり → コミュニティーの維持、仕事、生き甲斐づくり

◆子ども達へのケア

〔復興に向けての課題〕

◆瓦礫の広域処理

- ・ 県外の皆さんの協力が必要。仙台市も処理が終わり次第他市町の瓦礫受け入れを決定。東北各県、東京都23区、静岡県島田市で処理開始。佐賀県武雄市、静岡県浜松市も検討開始。

◆集団移転事業

- ・ 沿岸部対象 2,000世帯 1,200ha
どうしても戻りたいという方への対応。もどに戻るのではなく、新たなまちと産業、雇用とともに元気を創り上げる。
*仙台市震災復興計画（100万人の復興プロジェクト／10の事業）

〔日時〕 7月11日（水）10：30～15：30

〔場所〕 南三陸町

〔内容〕 仙台市より、「復興支援バス」で南三陸町内の被災状況の視察と、語り部さんによる震災時の状況等の講演を聞く。

〔南三陸町の被害状況〕

◆地震概要

- 〔発生日時〕 平成23年3月11日
14：46頃
- 〔震央地名〕 三陸沖
- 〔規模〕 マグニチュード9.0
- 〔町内震度〕 震度6弱
- 〔津波〕 3月11日14：49警報発令
3月13日津波注意報解除

◆人的被害（平成23年4月3日現在）

- 〔全人口〕 17,666人
- 〔死者〕 396人
- 〔行方不明者〕 612人
- 〔負傷者〕 調査中

◆建物被害

- 〔戸倉地区〕 520戸（75%）
- 〔志津川地区〕 2,020戸（75%）
- 〔入谷地区〕 10戸（2%）
- 〔歌津地区〕 780戸（55%）
- 〔計〕 3,330戸（62%）
（ ）内の％は、り災率

〔ボランティアガイドさんによる説明〕

今回、私たちの視察に南三陸町ガイドサークル「汐風」のボランティアガイド芳賀たえ子さんが同情してくれた。芳賀さんは、震災の記憶を語り継ぐことは、後世に教訓を残すことであり被災者の心の整理にもつながるといふことで、つらい3.11の話をして下さった。

芳賀さんは、昭和35年、9歳のときのチリ地震の津波で祖母やいとこを亡くし地震がき



▲防災対策庁舎 この施設で、津波の来襲と高台への避難をひたすら呼び掛け続けた遠藤未希さん（24）。いまだ安否が分からない。



▲もともと南三陸町で鮮魚店やパン屋さん、花屋さんなどを営んでおられた方々が、プレハブで復興のための商店街を作られていました。

視察報告

たらどうするか、津波がきたらどうするか、そういうときにはなにがあっても自分の身を確保することだと、いつも話し合っていたそうだが、そんな芳賀さんのご家族にふたたび津波が襲い、兄と姉を亡くされ、自宅も流された。バスの中から3.11の時の状況を説明してくれる芳賀さんも時折、辛い記憶が蘇り言葉を詰まらす場面もあった。特にTV等で何度も放映されたあの災害対策庁舎の前に行く、「足を踏み入れることができない。すみません」と話された。

また、バスを降り、「南三陸さんさん商店街」の中にある会場で、「東日本大震災～あの時を忘れない～」として、芳賀によりパワーポイントを使い説明があり、続いて同じサークルの菅原幸子さんが、震災当時、津波に巻き込まれたビルの4階で一晩過ごし、救助された体験を話して下さった。



▲芳賀さんによるパワーポイントを使っての震災時の様子を説明。



▲菅原さんによる、被災体験を聴く参加者。

視察報告

〔日時〕 7月12日(木) 9:00~14:00

〔場所〕 石巻市

〔内容〕 南三陸町から女川市、その後、石巻市の石巻市立大川小学校と市内の被災状況を視察。

〔石巻市の被害状況〕

- ◆人的被害 (平成23年4月3日現在)
 - 〔全人口〕 162,822人
 - 〔死者〕 3,170人
 - 〔行方不明者〕 759人
 - 〔避難者数〕 1,438人
 - 〔避難所数〕 50棟

- ◆建物被害
 - 全壊+半壊 22,419棟

〔女川町の被害状況〕

- ◆人的被害 (平成23年4月3日現在)
 - 〔全人口〕 10,016人
 - 〔死者〕 565人
 - 〔行方不明者〕 411人
 - 〔避難者数〕 256人
 - 〔避難所数〕 6棟

- ◆建物被害
 - 全壊+半壊 3,263棟





▲女川町立病院にある津波の到達地点を示す柱。この病院は海拔 17 メートルに建っているが更に 2 メートルの津波が来たことを示している。



▲女川町の平地に建っていた交番。女川町は最高で 30 数メートルの津波が襲い、町の建物や被災を受けた住民のほとんどが引き波によるものとされており、行方不明者が多い。



▲女川町の役場の横の瓦礫置き場。この他にも膨大な量の瓦礫が仮置されていた。



▲この地域の避難所に指定されていた石巻市立大川小学校。瓦礫は片付けられていたが、黒板の存在からおそらく教室だったと思われるところ。

視察報告



▲全児童 108 名中、70 人が死亡、4 名が行方不明、教師 13 名中 9 名が死亡、1 名が行方不明となった大川小学校にある鎮魂碑前にはたくさんの献花が手向けられていた。



▲大川小学校とは対照的に、震災時児童たちは津波前に裏の日和山に逃げて全員助かった石巻市立門脇小学校。

【視察を終えて】

震災から 1 年 4 ヶ月が過ぎ、復興の状況も含め議会としてどう対処したのかを直に見て、聞いたことは大きかった。仙台市議の岡本さんから言われた「中学生、高校生の力は役に立った」といわれたこと。つい、私たち大人は、全てのことに決めてしまうが、防災に関することをはじめ市民としての中学生、高校生の力をまちづくりに活かす施策の実現が重要であると認識した。

また、南三陸町では瓦礫の処理など復興が進められているが、数多くのダンプと騒音を発する重機の音は今でも耳に残っているが、「仮設住宅で暮らす子ども達にとって復興の現場は危険なところであり遊び場もないんですよ」とボランティアガイドの芳賀さんが言われたことは胸が痛かった。宮城県だけでなく岩手も福島も復興にはまだまだ時間と労力とお金がかかるだろうが、住民の皆さんはしっかりと前を向いて生きておられることに勇気を頂いた。今回の視察で感じたことをしっかりと議員活動の中で活かしていきたいと思う。